

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2021 No.541

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



2020年度 診療放射線技師養成機関・ 職域団体との懇談会 開催される (Web併用)

2020年11月28日(土)午後2時より、本会事務局発信の下、Web会議システムで診療放射線技師養成機関・職域団体との懇談会が開催された。

初めに、上田会長よりあいさつがあり、江田理事より出席者が紹介された。今回は46の養成機関、9の職域団体、総勢77人の方々にご出席いただいた。本会からは上田会長、江藤副会長、富田副会長、中村(勝)業務執行理事、江田理事、江端理事、北村理事、西川理事が出席した。

次第は、日本診療放射線技師会の事業として、上田会長より「2020年度事業計画の進捗状況」について、①医療放射線安全管理活動の推進②新たな役割拡大に伴う統一講習会の企画準備を行う③診療放射線技師プラクティショナー制度の調査活動の展開④画像診断読影補助業務・放射線検査説明相談業務の推進、臨床画像学等を学ぶ統一講習会の準備



を行う⑤診療放射線技師法の抜本的改正に向けた事業の展開⑥診療放射線技師の働き方改革の推進⑦診療報酬改定に向けた事業の展開⑧災害支援認定診療放射線技師制度の推進⑨新しい生涯教育制度を構築する事業を展開⑩「綱領」見直し委員会を立ち上げ検討する⑪第36回日本診療放射線技師学術大会の実施⑫国際交流事業を展開⑬新JARTIS(会員情報システム)を導入し、新しい運用の展開⑭事務所移転検討事業の展開——についてそれぞれ説明があった。

次に、中村業務執行理事より「会場型講習会等への新型コロナウイルス感染対策」について、西川理事より「業務拡大に伴う統一講習会実績報告」について、上田会長より「診療放射線技師学校養成所カリキュラム改善検討委員会からの報告」について説明があった。さらに養成機関および職域団体からの課題などを含め、今後の研修、臨床実習、学生の就職を中心とした質疑応答や意見交換が和やかに行われた。

最後に、富田副会長より閉会のあいさつがあり、懇談会は無事終了した。



2020年度 日本診療放射線技師会 分科会合同会議 開催される (Web併用)

2020年度日本診療放射線技師会分科会合同会議が、11月28日(土)に本会事務所でWebを併用して開催された。

江田理事により出席者の確認が行われ、上田会長よりあいさつがあった後、北村理事の議事進行で会議が進められた。

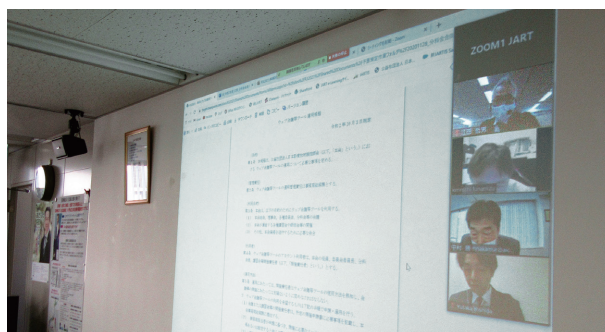
用意された議題は8議題であり、「2020年度分科会編成について」「2021年度事業計画について」「Zoomなどの使用について」「分科会主催講習会開催要綱について」「診療放射線技師学術大会における分科会企画について」「新生涯教育システムについて」「e-ラーニングコンテンツの作成につい

て」「その他」であった。

中村業務執行理事がこれら議題の資料説明を行い、質疑応答など議論が行われた。分科会では認定の設置を目標とすることが教育委員会から示された。また学術教育委員会が各分科会に対して、新生涯教育システムにおけるe-ラーニングの作成を依頼し、今後、各分科会で検討することになった。

その他、活発な議論が行われ大変有意義であった。

最後に江藤副会長よりあいさつがあり、本会議は終了した。



第4回および第5回 医療放射線安全管理責任者講習会 開催される

第4回および第5回医療放射線安全管理責任者講習会が、2020年11月22日(日)・23日(月・祝)の午前9時30分から午後5時10分まで、三井住友銀行東館 ライジングスクエア3階(東京)で開催された。

本講習会は、「医療放射線安全管理責任者」を育成すること、「診療用放射線の安全利用のための指針」のひな型を提示すること、ならびに中小病院および診療所を含む全ての医療機関に情報提供をすることを目的として開催している。

講習会の修了者数はそれぞれ70人、73人であり、多くの皆さまに参加していただいた。

本講習会は大きな会場で行われており、本会で定めた「会場型講習会開催ガイドライン(新型コロナウイルス感染対策)」に基づいて感染対策を十分に行った上で実施していた。

初めに、中村業務執行理事の司会進行で本講習会が開始され、上田会長よりあいさつがあった。

講習会の内容は、「医療法施行規則一部改正の経緯と日本



診療放射線技師会の取り組み」「医療法施行規則および関連通知」「診療用放射線の安全利用のための指針の作成」「正当化とリスク、放射線障害への対応」「被ばく線量の最適化とDRL」「線量の記録」「患者への説明」「医療放射線の安全管

理における放射線機器管理士の役割」「医療被ばく低減施設認定」であり、第4回の当該講習会から放射線機器管理士に

関する内容が含まれ、大変充実した内容であった。受講者からは、大変ためになったとの声が寄せられた。



第7回 業務拡大に伴う統一講習会（東京） 開催される

2020年11月22日(日)・23日(月・祝)の2日間、業務拡大に伴う統一講習会が本会事務所で開催された。2020年4月以降から予定されていた第1回から第6回までの東京・大阪での統一講習会は、新型コロナウイルスの影響により全て中止となり、本講習会が第7回にして本年度初の開催となった。

初日は、DVD放映による講義を受講していただいた。2日目には、講義に加え実習・演習を行うため、受講生を講義班と実習班の2つに分割し密にならないよう工夫がなされた。実習ではさらに2グループに分かれて、間隔を確保した上で実施された。会場は感染対策の配慮が必要となったものの、和やかな雰囲気の中、受講生は真剣に取り組んでいる様子がうかがえた。最後に確認試験を行い、23人(会員17人、非会員6人)全員が無事全てのカリキュラムを修了した。

本講習会では、参加する受講者および講師・スタッフには検温と体調の確認用紙の記載を実施した。マスクの着用は必須とし、こまめな手指消毒の呼び掛けや、実習では受講生の



入れ替わりの都度清拭・消毒を実施するなど、感染対策を施した中で今回の講習会が実現された。ご理解、ご協力いただいた講師の先生方や受講生の皆さま、関係各位に厚くお礼を申し上げます。



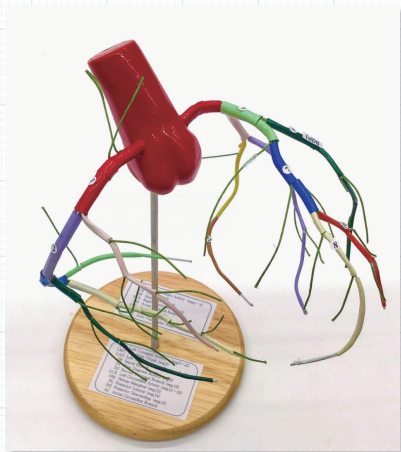
診療放射線技師のための フレッシュャーズセミナー 開催報告

富山県

公益社団法人富山県診療放射線技師会 石崎 宗一郎（済生会富山病院）

フレッシュャーズセミナーで「冠動脈模型作り」

富山県診療放射線技師会では、2020年11月8日（日）に18人の参加者と共にフレッシュャーズセミナーを開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、JARTの会場型セミナー予防ガイドラインに沿って、半日で終わる予定を立てました。本県の学術担当理事から「こんな時だからこそ、短時間でも楽しく学べるセミナーを！」との熱い思いで今回のセミナーを企画し、模型作成は「講義・インストラクター」を北陸アンギオ研究会の協力で行い、作りやすい模型キットは、関西の研究会さんからのご厚意で調達が実現しました。



セミナーは「基礎的な冠動脈の解剖」を座学で学び、模型作成に取り掛かりました。左右20本の細い針金を、設計図を見ながら折り曲げたり、適切な長さに切られたカラーチューブを差し込んで、ドライバーの熱で束をまとめたりを繰り返し、徐々に冠動脈を形成していきます。途中、何度か作業の手を止めては、血管が向かう方向の意味を解剖学的に考え、右心室と左心室の圧の違いを意識した形状トリミングの必要性を理解しながら作業を進めました。3時間ほどで参加者全員の冠動脈模型が無事完成した後に、自作の模型を心臓カテーテル・心臓CT画像と照らし合わせながらの振り返り講義を行い、理解を深めました。受講生からは「楽しく学びました。職場に飾って仕事に生かします！」との声も聞かれ、有意義なセミナーとなりました。

本セミナーの前に、石浦会長から「当会が主催・共催している勉強会・催事の紹介」「職能団体としての技師会加入の有用性、新規加入を勧めるお話」がありました。加えて閉講式では、伊藤副会長から「当会は北陸・中部の技師会と学術交流があること」や「臨床画像セミナー・女性技師の会があること」「Webを使った研究会を開催していること」も紹介され、「また技師会の場でお会いしましょう」とのあいさつで締めくくられました。本年度も多くの仲間が当会へ入会されることを期待したいと思います。



完成した冠動脈模型を手に閉講式

愛知県

公益社団法人愛知県診療放射線技師会 副会長 鈴木 正広

愛知県診療放射線技師会では、2020年11月8日(日)にJAあいちビルの大会議室で「令和2年度フレッシューズセミナー」を開催致しました。

当初は、5月31日(日)に定員を設けず、セミナー後は参加者同士の親睦を深める懇親会も行うという昨年までと同様の形式で準備しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により7月19日(日)に延期し、さらにそれも断念することになりました。何とか開催したいとWeb形式も検討しましたが、入会促進の大きなイベントであり、直接的に働き掛けをしたい、技師同士や役員とのつながりも大事にしたい、また新人として大切な多くの知識を効率的に学んでいただきたいとの思いから、三たび会場型での開催で準備しました。感染防止対策として、7月にJARTより「会場型講習会開催ガイドライン」が示されており、ガイドラインに準拠した対策を講じ11月に開催することにしました。10月初旬より受講者の募集を開始して60人の応募があり、開催日までの1カ月で感染が拡大しないか不安ではありましたが、中止を決定するまでの感染拡大とはならず11月8日に開催することができました。

受講者58人での開催となりましたが、予定通り9時



30分よりセミナーが始まりました。「日本診療放射線技師会・愛知県診療放射線技師会の役割」「診療放射線技師の生涯教育」「感染対策」「医療安全」「マナー・エチケット」「胸部単純撮影講座」の講義を行い、最後に「入会案内」の説明をして午後4時45分にセミナーは終了となりました。

開催から4週間が過ぎ、一人も感染者を出すことなく今に至っていることに安堵しております。参加した新人診療放射線技師が、同級生同士で久しぶりの再会を楽しむ姿を見た時に、会場型での開催意義を感じた気がしました。

三重県 (Web開催)

一般社団法人三重県診療放射線技師会

三重県診療放射線技師会では、本年度のフレッシューズセミナーを2020年11月1日(日)よりWebセミナー(Zoomミーティング)として開催致しました。参加者はフレッシューズ19人、非会員16人を含む計41人でした。

セミナーでは4科目の講義、および界外会長より「入会案内」の説明がありました。以下、簡単に講義内容を紹介します。

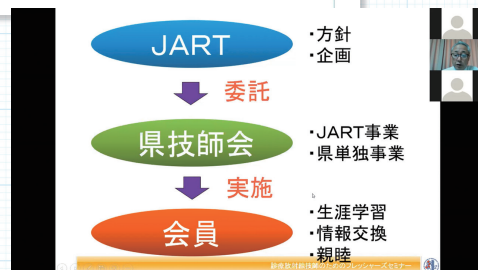
「エチケット・マナー」については鈴鹿医療科学大学 北岡ひとみ氏より、医療人としての基本姿勢・接遇、電話の対応などについて講演されました。「医療コミュニケーション」については鈴鹿医療科学大学 武藤裕衣氏が講演し、専門技術を発揮させるための「コミュニケーション」の重要性や、相手の特性に応じた対応法などに加え、実際に全員で声を出してのグループワークを行うことで、ノンテクニカルスキルの重要性を参加者に体験いただきました。「医療安全」については松阪中央総合病院 姫子松博洋氏が講演し、医療界でのリスク・マネジメントについてお話いただきました。「医療被ばく低減(被ばく相談)」については市立四日市病院 丹羽正厳氏より、医療被ばくの現状とその低減に向けた取り組み

ノンテクニカルスキル

② コミュニケーション

相手に分かりやすく
自分が伝えたいことを伝える技術

人を動かす技術。単に「分かった」と
意思疎通を図るということではない。



のほか、「何度も撮って将来生まれてくる子供に影響はないか」など、患者さんから寄せられる具体的な質問について回答法を講演されました。

初めての「Webセミナー」でしたが、フレッシューズセミナーとして過去最多の参加者を迎え、無事にセミナーを終了することができました。

鳥取県 (Web開催)

一般社団法人鳥取県診療放射線技師会 教育担当委員 深田 尚洋

本年度のフレッシューズセミナーは新型コロナウイルスの感染拡大状況があり、他院の技師との勉強会への参加が困難という報告もあったため、初のWeb開催で行いました。

Zoomでの開催も考えましたが、配信トラブル時に対応が困難であり、いつでも見られる方が参加しやすいのではと考え、事前に収録してYouTubeを用いて配信しました。

対象者にURLを知らせ2020年10月12日(月)より配信を開始し、2週間、講義動画が見られるようにしました。動画視聴後、アンケートの返信をもって受講確認とすることで開催しました。

参加者は新人2人でした。

内容は「技師会について」「マナー・エチケット」「医療安全」「病気の理解(消化器)」「気管支解剖」です。

木村常務理事に収録、動画のアップロードなど、多大なご尽力を頂きました。

いつでも講義が見られるのは、これまでの対面による開催と比べ、受講者にとって時間的に参加しやすい状況が作れました。講義もZoom収録でしたが、通常の講義と違い、受講者の顔が分からない状況で、正直、違和感がありました。YouTubeでは視聴回数は分かりますが、誰が見たのかが分からないので、YouTubeにコメントを残すなどアンケートを出してくれないと受講確認ができないという課題が出ました。

今後もWeb開催が考えられますが、来年度は院外での技師のつながりが少しでも持てるように、通常開催ができるようになってほしいです。

山口県

一般社団法人山口県診療放射線技師会 理事(教育) 渡邊 征二

2020年11月1日(日)、パルトピアやまぐち2階第一会議室においてフレッシューズセミナーを開催した。参加者は12人であった。

例年は7月に開催しているが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、日程を変更しての開催となった。

本セミナーの趣旨は、医療人としての心構えや基礎知識の習得および診療放射線技師会への入会促進であるが、新人診療放射線技師の顔合わせの場としての意義もあり、開催形式は会場参集型とした。

また講義は「エチケット・マナー」「医療コミュニケーション」「感染対策」「胸部撮影(気管支解剖を含む)」「診療放射線技師会の活動について(入会案内)」の5科目とし、マスク着用と手指消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保や換気の実施など『会場型講習会開催ガイドライン(新型コロナウイルス感染対策)』に準じた半日の



プログラムとした。

参加人数の減少を懸念していたが、結果的には例年と同程度の参加があり、受講者の関心の高さがうかがえた。また本セミナーへの参加を促していただいた会員各位のご理解とご協力にも、改めて感謝申し上げたい。

JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

2020年度 北海道地域学術大会 報告記 (Web開催)

一般社団法人北海道放射線技師会
常務理事 阿部 恭兵



Web配信会場の様子

2020年10月31日(土)に、2020年度日本診療放射線技師会北海道地域学術大会が開催されました。

本年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の影響もあり、北海道放射線技師会研修センター「学びの館」で講演を行い、全道へとWeb配信をする形で開催となりました。

講演1は、放射線管理・機器管理合同委員会から「北海道内医療機関における医療被ばくの実態調査(北海道版DRL)について」というタイトルで、札幌医科大学附属病院の鈴木淳平氏にご講演いただきました。

実態調査に参加することで自施設の現状を身近な地域の病院と比較することができ、被ばく線量だけではなく、装置の機器管理を見直す大変良い機会となりました。

講演2は、部会企画として頭部・頸部領域部会から札幌美しが丘脳神経外科病院の土門伸也部会長、整形領域部会からかない内科・消化器クリニックの山口大樹部会長、ふらっと会からJCHO北海道病院の鵜岡リサ監事にご講演いただきました。特に頭部・頸部領域部会と整形領域部会は、モダリティーにとらわれず領域ごとに臨床に則した企画として本年度より新設された部会であり、各部会長から、部会が発足した背景やこれからの活動と企画の一部をご講演いただきました。今後の部会企画が楽しみとなるような興味深い内容となっております。

講演3は、「新型コロナウイルス感染症への対応経験」として、手稲溪仁会病院の中島広貴氏と苫小牧市立病院の黒田直氏に、現場の実情や各病院で実践されている感染症対策の詳細などをご講演いただき、他の病院と感染症対策の情報を共有することの必要性を強く感じました。

講演4は、「新型コロナウイルス感染症に対する対応状況・行政対応について」というタイトルで、北海道議会議員の武田浩光先生にご講演いただきました。診療放射線技師資格を持つ道議会議員として、国や北海道における新型コロナウイルス感染症対策の経緯について、法律的な観点や経済的な視点も交えて講演いただきました。北海道の現状や地域医療の重要性を改めて考えさせられた講演となりました。

最後に、今後も北海道放射線技師会ではWebを併用するなどして、できる限り会員の皆さまのお役に立つようなイベントを開催していこうと考えております。皆さまのご参加をお待ちしております。



北海道放射線技師会
富田伸生 会長



北海道議会議員
武田浩光 先生



手稲溪仁会病院
中島広貴 氏



整形領域部会 (HONET)
山口大樹 部会長



頭部・頸部領域部会
土門伸也 部会長



ふらっと会
鵜岡リサ 監事

第15回九州放射線医療技術学術大会開催報告

一般社団法人長崎県診療放射線技師会
会長 福田 徹
(第15回九州放射線医療技術学術大会 大会長)



2020年11月14日(土)・15日(日)の両日にわたり、長崎ブリックホール(長崎市)で第15回九州放射線医療技術学術大会を開催致しました。この学術大会は、九州地域放射線技師会・日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会九州支部による合同地方大会です。大会長と実行委員長は両会から交互に任命され、今回は長崎県診療放射線技師会会長の私が大会長を務めました。

未曾有のコロナ禍となった本年度、さまざまな学会や研修会が中止もしくはWeb形式での開催をする中、九州地区、特に長崎県は状況が落ち着いており、どうすれば現地開催ができるのか、学会発表の空気感を味わうことができるのかを模索し、両会の役員各位、協賛いただいた企業の皆さま、酒本実行委員長をはじめとした実行委員と当日スタッフ、そしてこの状況下で演題を登録いただいた会員と学生の皆さまのご支援に支えられて無事に開催できました。本会上田会長と日本放射線技術学会 白石代表理事がご臨席の中、学会参加者386人、市民公開講座一般参加者40人の合計426人と多くの方にご来場いただきました。

コロナ禍での開催において重要視したことは、感染状況の把握と参加者の安心感です。幸い9月中旬以降は陽性者数も落ち着いており、開催判断は1カ月前に一度行い、最終判断は10月31日に学術大会役員会の了承の上、現地開催が決定しました。学会場での感染リスクは少ないと考えておりましたが、入館時の体温確認(37.5℃以上の方の入館禁止)、会場内でのマスク着用を徹底させ、アルコール消毒の実施、そしてランチョンセミナーや情報交換会は中止としました。個人的には情報交換会の中止は残念であります。今回は学会をすることだけに全集中で取り組みました。高校生を対象とした市民公開講座「診療放射線技師になろう」でのアンケートでは、6割の方から「参加による感染の不安があったが、会場内で実施した感染対策を受け、全ての参加者が安心した」との回答を頂きました。

With コロナで学会の運用も模索していき必要がありますが、観衆の目を見て発表できる機会があることの大事さを再認識させていただいた学会でした。



本会の動き

放射線治療分科会 新委員のご紹介

2019年度の放射線治療分科会活動は、3回の生涯教育セミナー（滋賀・宮崎・新潟県）の開催、がん放射線治療における質の確保に向けた基礎セミナーの実施（広報委員会との共催事業）、学術的情報の提供として誌上基礎講座の掲載を数回に分けて行いました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対面の生涯教育セミナーを実施することができておりませんが、感染

防止の対応アンケートによる情報共有や誌上基礎講座の掲載を実施しました。社会情勢はまだ先行き不透明な部分を多く残しておりますが、より皆さまへ還元できる事業に取り組んで行くためにも、新たに2人の委員を迎えることに致しました。以下に紹介させていただきます。これからも放射線治療分科会をよろしく願い致します。

（放射線治療分科会会長 川守田 龍）

藤田医科大学 安井 啓祐

このたび、放射線治療分科会の委員を拝命致しました藤田医科大学医療科学部放射線学科の安井と申します。私は2010年から2016年まで、名古屋陽子線治療センターで陽子線治療専属の診療放射線技師として業務に従事しました。2017年より現職となり、診療放射線技師の専門教育、放射線治療に関する研究を業務の中心としております。

放射線治療分科会の活動は放射線治療に従事する診療放射線技師の資質向上を目的としており、そのためにさまざまな活動が行

われています。委員を拝命してから数カ月間活動させていただき、目的のために一丸となり取り組む委員の先生方の熱い思いを目の当たりにしました。私もその中で、自らが培ってきた技能や知識を遺憾なく発揮し、放射線治療の質の向上に寄与できればと考えております。特に昨今、働き方改革に伴う医師業務のタスク・シフトが推進されており、治療部門においても技師業務の重要性は増すものと想定されます。日本の現状では治療専属の技師は少なく、諸外国とは異なる安全確保への取り組みも重要となるため、広い視野を持って活動に尽力していきたく思います。

埼玉医科大学総合医療センター 畑中 星吾

このたび、放射線治療分科会の委員を務めることになりました埼玉医科大学総合医療センターの畑中星吾と申します。私は2009年に首都大学東京大学院（現：東京都立大学大学院）の博士前期課程を修了した後、聖路加国際病院、神奈川県立がんセンターでの勤務を経て、2015年より現職となり、現在は主に放射線治療計画および品質管理業務に従事しております。高精度放射

線治療の普及やタスク・シフトの推進により、放射線治療における診療放射線技師の重要性はますます高まっていくと考えられます。その中で、治療技師の資質向上を目的とした放射線治療分科会の活動は非常に重要であると感じています。そのような分科会委員にお誘いいただいた時は、正直私のような若輩者に務まるのか？という不安が大きく、現在もなお自分の未熟さを痛感しておりますが、少しでも放射線治療の発展に貢献できるよう尽力していきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしく願い致します。

暗室

就職したての頃、まだ当院にも暗室があった。今の世代では想像もつかないかもしれないが、X線フィルム全盛期の頃、真っ暗な部屋で（セーフティーライトなるものがついてはいるが）、自動現像機に撮影済みフィルムを挿入する業務があった。業務自体は簡単だが、なにぶん機械であるため、フィルムが詰まったり、動かなくなったりして、いかにフィルムを救済するかが腕の見せ所だった。当院の暗室は入り口が2つあり、1つは迷路となって遮光している入り口であり、もう1つは単純にドアであった。ドアには、「関係者以外開けないでください」と張り紙がしてあるのだが、新しく赴任されたドクターが開けてしまい、お互い大きな声で「あっ！」と叫び、びっくりした顔をさらけ出すこともしばしばあった。

ある日の深夜、交通外傷で一般撮影に多くのオーダーが出て、一人で撮影後、暗室に入ってフィルムを取り出し自動現像機に入れていると、コツコツと音が響き、人の気配がした。長い髪で白い衣装がぼんやりと見えたときは、思わず「うわっ！」



と大きな声を出し、暗室のドアを開けたくなったが、診療放射線技師の端くれである私は、恐怖をぐっとこらえて作業を続けた。すると「もうすぐ終わり？」とかわいらしい声があった。髪長い白衣を着た若い女医さんが、画像を早く見たくて来てくれただけだった。やはり深夜の暗室はきつい。

当院の暗室は手現像の時代のものを改造して、その面影が所々にある。深夜の手現像はさぞかしきついただろうなと思った。それをしなくて済むのもひとえにデジタル化のおかげである。このデジタル化に至る経緯は、先人の苦勞の積み重ねでできているものである。今日、車が自動運転をするような、飛躍的に技術が進化した時代の中で、われわれ診療放射線技師としても飛躍しているだろうか。飛躍しているのは技術だけと言われられないように精進していきたいものである。ただ、私にとってデジタル化の一番の恩恵といえば、暗室に入らなくてもよくなったことなのであるが。

（文責：東北地域 船水憲一）

INFORMATION



第37回日本診療放射線技師学術大会
第23回アジア・オーストラレーシア学術交流大会 (23rd AACRT)
第28回東アジア学術交流大会 (28th EACRT)



第2回 東京への道 Go To TOKYO



実行委員長 市川 重司
(公益社団法人東京都診療放射線技師会)



技術の多様性と人の調和 / Diversity of technology and Harmony of people

1895年に放射線が発見されてから、今年で126年余り、その間の進歩は目を見張るものがあります。昨今の医療とそれを取り巻く環境は、数年前の技術が過去のものとなり、数年前に描いた構想が具現化されるなど、日々進化と変貌を遂げています。10年先は考えもつかない世界になっていることと思います。

しかし、いくら進歩しても創生するのはヒトで、管理するのはヒトではないかと思えます。

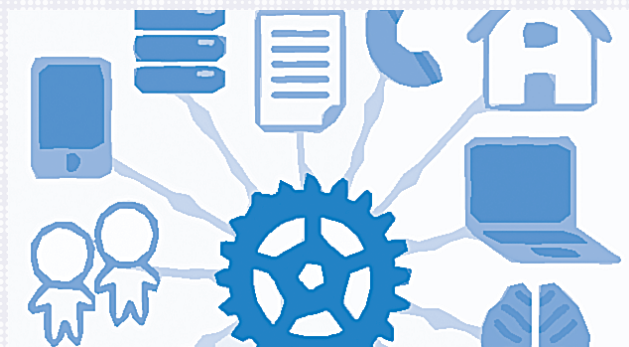
アーノルド・シュワルツェネッガーが主演を務めた『ターミネーター』という映画をご覧になった方は多いと思われる。私も各シリーズを2桁は見ました。第2作が一番好きですが(笑)。

ヒトが作りだしたコンピューターシステム(映画では「スカイネット」)が人工知能を持ち、ヒト(人類)を攻撃するというストーリーです。

映画の中のことが現実化するとは思えませんが、時代が進むに従い、コンピューターシステムの中でヒトが生活することは間違いなく、すでにその環境が到来していると言っても過言ではないでしょう。

本来「ターミネーター」という言葉の意味は、SCSI機器やバス型ネットワークなどで信号の反射を防ぐため、配線の終端に取り付ける抵抗器のことを指し、周辺機器を数珠つなぎに接続した際に、最後に取り付けることで、信号の乱れや反射を防ぐほか、ネットワークが数珠つなぎの配線となる場合の終端にも取り付けるといことです。映画ではここに知能を有することで、話の展開が始まるわけでありです。

医療技術が多様化する中で、ターミネーターの役割を果たすのはヒトであり、ヒトとヒトの歯車が調和を生み、技術革新を後押しします。今学会!!!何を生むか?それを見届けるのがあなたです。コロナ禍の時代、新しい学会の在り方を模索しての開催となります。多くの方の参加をお待ちしております。





第37回

日本診療放射線技師学術大会

37th Japan Conference of Radiological Technologists

第23回 アジア・オーストラレーシア学術交流大会 (23rd AACRT)

第28回 東アジア学術交流大会 (28th EACRT)

国民と共にチーム医療を推進しよう

Lets promote team medical care with the nation

技術の多様性と人の調和

Diversity of technology and Harmony of people

■ 2021年11月12日(金) ▶ 14日(日)

■ 東京ビッグサイト



会長

President

上田 克彦 Katsuhiko UEDA
公益社団法人 日本診療放射線技師会会長

大会長

Chairman

篠原 健一 Kenichi SHINOHARA
公益社団法人 東京都診療放射線技師会会長

■ 運営事務局

公益社団法人 東京都診療放射線技師会

E-mail: taikai2021@tart.jp

主催 公益社団法人 日本診療放射線技師会
共催 公益社団法人 東京都診療放射線技師会
後援 厚生労働省(予)
東京都(予)

1月・2月の講習会などスケジュールのご案内

- 消化管造影セミナー： Web開催 2月 8日(月)
- 医療放射線安全管理責任者講習会： 宮 城 2月14日(日)
- 業務拡大に伴う統一講習会： 大 阪 2月20日(土)～21日(日)【中止】
東 京 2月27日(土)～28日(日)

※新型コロナウイルスの感染状況により、開催中止または開催方法が変更になる場合があります。

INFORMATION

ホームページ閲覧のお願い

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt000000603l.html

INFORMATION

論文投稿システム運用に伴う投稿規程改定の紹介

2020年11月より論文投稿がオンライン化されました。これに伴い、2020年度第6回理事会で本会が定める投稿規程が一部改定されました。

これまでは「原稿を正副2部提出し、正原稿には電子媒体にて当該データを添付」(旧投稿規程引用)して本会事務局に郵送する必要がありましたが、「オンライン投稿システムを用いて投稿する」(新投稿規程引用)と改定されました。電子化により紙媒体や郵送の手間をなくし、時代に即した形式に変更されています。

投稿規程は毎号会誌に掲載されています。またオンライン投稿ページからも閲覧可能です。上記内容以外にも変更された細かな項目がありますので、会員の皆さまには論文の執筆前に必ずご確認くださいようお願い致します。

なお、具体的なオンライン投稿方法については、**本会会誌2020年11月号**または本会Webサイトトップページ右側のバナー「論文投稿システムはこちらから Editorial Manager」をご参照ください。

INFORMATION

本会への入会手続きについて(お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- 1 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から“新規入会はこちらから”をクリック
- 2 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。
TEL : 03-5405-3612 E-mail : info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

INFORMATION

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。